

## 【戯曲募集】

《ナビイチリーディング》では、ブラッシュアップを希望する戯曲を隨時募集しています。既に上演したものでも構いません。地域の第一線で活躍する俳優によるリーディング上演をした後、ゲストを迎えたディスカッションを行い、あなたの戯曲の新しい魅力を発見します。エントリーは無料です。詳細は日本劇作家協会東海支部 HP などをご参照ください。応募多数の場合は、きちんと読んだうえで、取り上げる戯曲を選考いたします。ぜひともご応募ください。

\* 詳細お問い合わせは、日本劇作家協会東海支部 HP からお願いします。

□ナビイチリーディング次回開催情報は、日本劇作家協会東海支部の HP、SNS 等でご案内差し上げます。

□ナビイチリーディング | お問い合わせ

\* 日本劇作家協会東海支部 HP

\* Loft Plan : 電話 090-9929-8459

□主催：日本劇作家協会東海支部、ナビロフト、Loft Plan

□制作協力：名古屋演劇教室

日本劇作家協会東海支部×ナビロフト

## 《劇王》 のための ナビイチリーディング

【ナビイチリーディング 第 18 回目】

2021 年 10 月 18 日 (月)

19:00～20:55

会場 : G/PIT

## 【今月の戯曲】

作：小粥幸弘『それ、抜きますか？』

### 【リーディング・キャスト】

- キトウ：棚瀬みつぐ
  - オニヅカ：堀江善弘 (afterimage／【exit】／喫茶 River)
  - オンダ：おにぎりばくばく丸（上田勇介）
  - ト書き：市川愛子
- 

- コーディネーター：鹿目由紀（劇団あおきりみかん）
  - ファシリテーター：関戸哲也（宇宙空地）
  - ディスカッション・ゲスト：小熊ヒデジ（てんぷくプロ）
- 

### □作：小粥幸弘 | プロフィル□

1962年静岡県浜松市生まれ。58歳。映画が好きだったので大阪芸術大学映像計画学科（現映像学科）に入学。シナリオは依田義賢先生に学ぶ。と書くとなにか一生懸命がんばっていたみたいだが課題のシナリオはいつも一夜漬けで嫌々書いていた。ただ友人には恵まれ後に映画監督になった橋口良輔君や斎藤久志君とは仲良くさせていただいた。

（1学年上の庵野監督とは残念ながら交流はなかった）大学卒業後、広告代理店で働くが街頭で新左翼のセクトにオルグされ会社を辞め過激な政治活動に没入する。しかしバブル景気に踊る世間では政治に対する興味などすっかり失っていた。そしてそれと連動するように新左翼諸党派もロケット弾などの戦術のバブル化に踏み込んでいく。（と、言ってもスプレー缶が空を飛ぶくらいの代物だが）そんななか活動家の生活もなかなか厳しく、給料の半分は党に没収され仕事と活動で年に2日くらいしか個人の時間がない中、ジュリアナ東京などを指をくわえて見ている毎日である。はっきり言って消耗した。そして28歳の時に活動から離脱する。つまり挫折した、ということになる。

その後しばらく職を転々としたのち愛知県では有名な某自動車メーカーの系列の自動車部品メーカーに就職。マルクス主義などをかじったため物事を変な角度から見る癖がついていたことがなぜか製造現場では「新しい発想」として重宝がられまた中小企業で人材不足であったこともありトントン拍子で出世して工場長になる。一度、労働争議のようなものがあり左翼系の労組と会社側として団交したときは「ああ俺はこっち側に来てしまったんだな」と戦慄した。

2年前、親会社から出向してきた新社長（親会社の創業家の次男）と折り合いが合わず退社。その後コロナ禍もあり現在無職。

### □劇作家ご挨拶□

本日はご来場くださいまして本当にありがとうございます。このような機会をいただき大変光栄です。つたない脚本ではありますが皆さまのご意見とともにより良い作品へとブラッシュアップしていきたいと思います。お付き合いのほど宜しくお願ひいたします。そして貴重なチャンスをいただいたナビイチリーディングさまには心より感謝いたしております。

さて、そもそもこのコメントを書く前にやたら長いプロフィールを書いてしまって（私個人としては自分の人生を省みる良い機会であったのですが）大変恐縮しております。しかしながら本作品のルーツとしてはやはり活動家時代に感じた個人と国家との関係、個人と所属する集団との関係、そして工場長時代に感じた管理する側から見た管理されている人たちとの関係、などに関する思いがないまぜになつたものがあるのです。そしてそれがコロナ禍の状況と化学変化を起こし本作品へと至った。というわけです。

お話をいただいた当初、果たしてこのコロナ禍の陰鬱としたメンタルで（おかげに劇作家協会新人賞一次審査落選という追い討ちもありました）何かものが書けるのか、という自問自答はたしかにありました。しかしながらナビイチリーディングさんは僕を戯曲創作の世界へ誘ってくださった大きなかきっかけであり、もっと元を正せば鹿目さんの浜松での劇作ワークショップからナビイチさんへの投稿のおすすめを受けたんですが（大変感謝しております）、そのナビイチさんがわざわざお誘いくださったということもあり、また浜松から劇王に参加できるかもしれないという年甲斐もない野望をかきたてられる部分もあって再度創作に励むことができました。

ただ、20分という何かを語るには短く何も語らなければ物足りないという尺には四苦八苦しました。そして設定の段階で大風呂敷を広げてしまったので「なんでもあり」の世界のなかで收拾がつかなくなってしまった感があります。

本日はぜひとも多彩なご意見で思う存分ぶつ叩いていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。